



おかだ

仙台市立岡田小学校
 学校だより 第14号
 令和4年2月24日
 TEL：258-1083
 FAX：258-2085
 児童数 176名

協働型学校評価重点目標

○明るいあいさつと相手の気持ちを考えた言葉遣いができる子供

大好評！学校ホームページ・ブログ更新・公開中

令和3年度 岡田小学校 協働型学校評価アンケート結果について

協働型学校評価アンケート結果については、既に学校ホームページに掲載しておりますが、改めて結果の概要と改善の方策についてお知らせいたします。また、2月17日（木）に開催した令和3年度第2回学校評議員会・学校関係者評価委員会において、委員の皆様から頂戴した協働型学校評価重点目標への取組に関する成果と課題についてのご意見も併せてご紹介いたします。



いただいたご意見を学校運営や日々の教育活動の改善に生かしていきます。引き続き、学校・家庭・地域の三者が協力して子供たちを育てていきたいと考えております。

【項目1】友達や先生、ボランティアの方々に進んで「明るいあいさつ」をするようにしている。

(A：はい B：どちらかというとはい C：どちらかというといいえ D：いいえ)

	A	B	C	D
児童	77.3%	22.1%	0.6%	0%
保護者	41.4%	56.4%	2.2%	0%
地域	40.0%	60.0%	0.0%	0%
教職員	35.7%	57.2%	7.1%	0%

児童・家庭・地域のいずれもA、Bを合わせると100%に近い値となっており、岡田小学校全体として概ね明るい挨拶ができていると評価しています。校内においても委員会活動やたてわり活動等とおして児童同士が声をかけ合い、挨拶を交わしています。地域の皆様からも挨拶の言葉をかけていただくことで、自分たちの挨拶で地域の皆さんを元気にしたいと思うようになった児童もおります。引き続き、三者の重点目標として取り組んでいきたいと思ひます。

【項目2】「ふわふわ言葉」を使うようにしている。(教職員：相手の気持ちを考えた言葉遣いができる)

(A：はい B：どちらかというとはい C：どちらかというといいえ D：いいえ)

	A	B	C	D
児童	58.7%	37.8%	2.9%	0.6%
保護者	19.6%	74.4%	6.0%	0%
地域	40.0%	60.0%	0%	0%
教職員	21.4%	57.2%	21.4%	0%

【項目3】「ちくちく言葉」を使わないようにしている。

(A：はい B：どちらかというとはい C：どちらかというといいえ D：いいえ)

	A	B	C	D
児童	66.3%	26.7%	5.8%	1.2%
保護者	10.5%	76.7%	12.8%	0%
地域	40.0%	50.0%	10.0%	0%

裏面につづく→

言葉遣いについて、「ふわふわ言葉」を使用しているとの回答は、児童・家庭・地域いずれも A、B を合わせて 90% を越えています。「ちくちく言葉」を使わないようにしているとの回答については、児童が A・B を合わせて 90% を越えているのに対し、家庭は A、B を合わせて 90% 弱という結果でした。家庭におけるふわふわ言葉についての声かけや、学校での児童同士の呼びかけ、いじめ防止きずなアクションの取組等の成果が表れていると思います。

時々、言葉の意味を深く考えずに相手を傷つける言葉を使ってしまうたり、感情に任せて心ない暴言を吐いてしまったりすることもあります。学校では、道徳の授業をはじめ、教育活動全般において相手の気持ちを考えることや場に応じた言葉遣いについて指導しております。今後も、お互いに思いやる気持ちを育みながら、言葉遣いについて継続して指導していきます。

【項目 4】学校は楽しい。

(A : はい B : どちらかというとはい C : どちらかというといいえ D : いいえ)

	A	B	C	D
児童	79.1%	17.4%	2.9%	0.6%

A と B を合わせると、96.5% の児童が「学校は楽しい」と答えています。多くの児童が安心して楽しく学校生活を送っている一方で、楽しくないと感じている児童が 3.5% いることも学校として大きく受け止めております。岡田小のすべての児童が楽しい学校生活を送ることを目指して、より深い児童理解に努め、日々の授業をはじめとする教育活動を絶えず改善してまいります。

また、学校運営に関して、児童への交通ルールや防災・防犯対策の指導、Chromebook の活用、学習内容の確実な習得、読書活動の推進、心身の健康への取組、PTA 活動・組織の見直しなどについて、多くのご意見をいただきました。次年度運営の参考にさせていただきます。

今年度からスタートした学校支援地域本部のご尽力もあり、「交通ボランティア」「保護者ボランティア」「小1生活・学習サポーター」をはじめとする地域の皆様に、学校内外の様々な場面でお世話になりました。地域の皆様が子供たちを温かく見守っていただいていることも、児童にとって学校が楽しい要因となっています。引き続きご支援ご協力のほどよろしく願いいたします。

学校評議員・学校評価関係者委員の皆様からのご意見

【挨拶・言葉遣いについて】

- ・アンケート結果や児童の姿から、挨拶の取組の成果が見られる。
- ・マスク越しで表情が分かりにくい。対面の交流が減っていると思うが、手紙の交流があつてよい。
- ・挨拶の意義を実感できるワークがあるので、機会があれば実施したい。
- ・親の立場でもちくちく言葉を使ってしまうことがある。ふわふわ言葉を使うよう意識したい。
- ・言葉遣いや交通ルールは、話しかけることが気づきになる。相手との関係性を大切にしながら積極的に言葉を掛けていきたい。

【その他】

- ・ゲームをしたり YouTube で動画を見たりする時間が多くなっている。学校と家庭が連携して使用時間を管理する必要がある。インターネットを使うメリットとデメリットを理解させる必要がある。
- ・低学年児童と歩いていると、「寂しい」と言う子が多くなったと感じる。関わりが薄いことが原因か。このことについて地域と学校で考えていく必要がある。
- ・最近、高学年児童が外で遊ぶ姿を見かけなくなった。
→クラスでの交流時間が増えている。
- ・学校でも児童館でも怪我が多い。生活の中で子供同士の距離感や周囲に対する注意など、声を掛けていく必要がある。
- ・いじめや命に関わることについては毅然とした態度で接している。保護者の皆様も理解してくださっている。
- ・コロナが収まり、子供同士の関係づくりができる本来の状況に戻ってほしい。

